

POST CARD



波の花蒔絵盃

川端宏房 略歴

昭和53年 蒔絵師 川端近左家に生まれる

平成9年 榎原学院高校卒業 美術科 卒業

平成11年 奈良芸術短期大学洋画コース卒業

平成13年 石川県立輪島漆芸技術研究所 専修科蒔絵コース卒業

平成14年 卒業後6代川端近左に師事

平成18年 大阪工芸展 勢力蒔絵花器 奨励賞受賞

平成18年 京都高島屋工芸サロンで初個展

平成25年 大阪高島屋ギャラリー-NEXT初個展

平成26年 京都高島屋個展

平成28年 東美アートフェアに出展

平成28年 京都ポルタギャラリー個展

平成29年 阪急百貨店 奈良マルシェ出展

大阪高島屋 大阪えもん展 出展

平成30年 第三回大美アートフェア出展 京王百貨店

美術画廊にて親子展 出展

令和元年 守口百貨店ミナム展に出展

東美DEN+ギャラリー3人展 出展

令和2年 高島屋大阪店 ギャラリー-NEXT 2回目個展

令和3年 京都高島屋 2回目個展

第2回久遠アートフェアに参加

令和4年 大阪美術倶楽部 親子展 出展

第3回久遠アートフェアに参加

令和5年 第4回久遠アートフェアに参加

アート玄羅にて高波壮太郎二人展

SOTARO TAKANAMI
全身画家 高波壮太郎

HIROFUSA KAWABATA
爛漫の漆芸 川端宏房

高波壮太郎と川端宏房

「おかしな二人」という戯曲があったが、この二人には対立もなく、騒動もない。親子ほど年齢の違う作家どうしが、それぞれの持つ創作の個性たるものに惹かれ、共にする作品の展示を通して共鳴を楽しみたいという願望に駆られることもある。二人の引き合わせは、画家と漆芸家というジャンルを超えて生まれ、その独自とする世界に遊ぶものだ。

画家のエネルギーな創作は、絞り出された絵の具の色彩によって成り立つものでなく、激しい人生の歩みがそのまま立ち上がり、画面に屹立する。200年近く受け継がれている川端近左の6代の子息である漆芸家は、その自由で自らの縛りを解くような大らかな漆の世界を表出させている。

作品は先入観のない眼で見られてこそ生き、生気を増すが、画壇やら世襲のあるべき仕事やらにとらわれないおかしな二人の世界は、はなから生生発展しているのである。

2023年10月20日(金)~11月6日(月)
12:00~17:30【水・木曜休み】
作家在廊日：10月22日(日)、23日(月)、24日(火)

アート 玄羅 gen ra

〒920-0853 金沢市本町2丁目15-1 ボルテ金沢3F
TEL/FAX 076-255-0988 [ホテル日航金沢横]
E-mail genraart@ozzio.jp
Web http://genraart.com



野の花



永遠の瞳をついてくれ



落陽

全身画家 高波壮太郎

高波壮太郎 年譜

1949年 東京に生まれる。

1973年 多摩美術大学油彩科卒業。在学中に中本達也氏に師事。

1986年 フランセーズコレクションより東京、パリにて版画集「Nature」を同時発売。

1989年 新宿京王百貨店にて個展('90 ~'04 ~'12, '16, '20)。

1990年~ 全国の高島屋にて個展以後現在に至るまで毎年、隔年開催。

2002年 吉井画廊(パリ)にて個展開催。

2004年 ルーブル美術館で販売される本「狼俳句12選」の原画展を
ギャラリー・ラヴィッシュにて開催。
吉井画廊(パリ)にて「狼俳句12選」の原画展開催。
RMN(Reunion des Musees Nationaux ARLYS
フランス国立美術館連合)より「狼俳句12選」出版。

2010年 笹川平和財団より「THE BEGINNING OF SPACE」<神々の間闘>
中東に向けて刊行。
横綱 白鵬関の化粧まわしの下絵制作。

2014年 銀座吉井画廊本館、サロンにて同時個展開催。

2018年 金沢、玄羅アートにて北陸初個展、以後毎年開催。

2019年~ 海外で現在に至るまで展覧多数。
(LA・NY・モナコ・マイアミ・ハンブロン・カンヌ・オーストラリア・パリ・ドイツ・スイス)

2021年 NYにて個展開催。

アート 玄羅 gen ra